

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：「カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
 - ・主催：日本学術会議
 - ・共催：日本分析化学会、日本化学会、日本工学アカデミー、日本分析機器工業会
- 3 開催日時：令和3年11月11日（木） 13時～17時
- 4 開催場所：オンライン
- 5 開催趣旨：

2030年国連目標のSDGsおよび2050年のカーボンニュートラルの目標の達成は、国際的な、また我が国の喫緊の社会的課題である。この課題解決のためには、最先端エネルギーデバイスや環境センサーなどの開発が必要であり、さらに、最先端分析技術の高度化が不可欠である。そこで、エネルギーや環境に関する現下の社会的な課題を多面的に議論し、社会のために学術ができること、しなければならないことを明確にするとともに、その成果を社会に向けて情報発信するため本フォーラムを企画した。
- 6 参加人数：

講演者等：12名

その他の参加者：最大同時視聴者数157（視聴回数：421）
- 7 特記事項：

昨今、各方面の取り組みが本格化するとともに社会の皆様からの高い関心が高い当該課題について、基調講演として、カーボンニュートラルに関する幅広い視点の重要性や我が国や世界の動向について説明があり、カーボンニュートラルに向けた技術課題の共通認識を深めた上で、1) エネルギー課題として、水素製造、新材料開発のための最先端電子顕微鏡、次世代電池などの最先端、および2) 環境課題として、気候変動の解析における最先端分析技術開発の課題や展望、海洋プラスチックの高速検出手法の開発と地球規模の計測の重要性などについて、それぞれ最先端のエネルギー・環境研究者に講演して頂いた。パネルディスカッションでは、「エネルギー・環境技術開発において求められる最先端分析技術、AIの活用は？」をテーマに、各講演者のご講演内容及び放射光に関する最新の話題を元にして、その内容と今後の分析技術やAIの役割についての現状や視点について議論され、分析科学や分析技術はオペランド分析技術など、分析化学や技術の進展の重要性や課題などについてまとめられ、今後の社会変革を支える基盤的科学技術の高度な進展が不可欠であることが示された。

このフォーラムを通して、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、社会に最先端の情報提供をすることができ、後に続く一連のフォーラムの先陣としての役割を果たすことができた。また、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、本フォーラムの共催学会などにおいても、今後、シンポジウムなど様々な取り組みが計画されている。さらに、本会議の成果は、今後の動向も勘案しながら、機会あるごとに『学術の動向』や各学協会誌などへの記事の投稿についても計画中である。